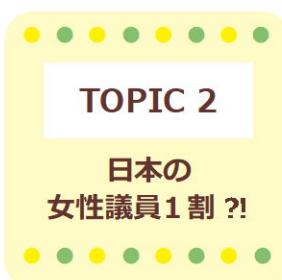


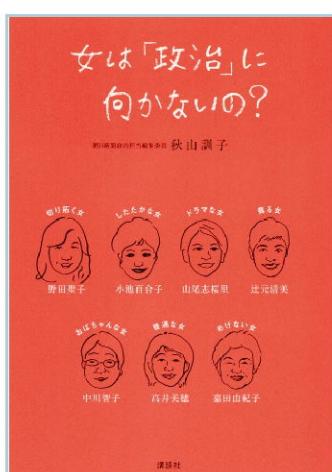
ウィザス

「ウィザス」はウィズアス= with us " 共に生きる—男女共生社会 " の理念を表しています。

特 集 女性も政治の世界へ



ウィザス ウォッキング



ウィザスあしや 情報コーナーおすすめ図書 女は「政治」に向かないの？ 秋山訓子・著

日本における女性国会議員の割合は約1割で、世界と比較しても圧倒的に低い水準であることをご存じですか。そして、この低水準の理由は、本書のタイトルどおり「女が政治に向かない」からなのでしょうか。

政治記者である著者によって書かれたこの本では、野田聖子議員や中川智子宝塚市長をはじめとする7人の女性政治家たちがどのように生まれ育ち、“超”男社会といわれる政治の場でどう奮闘してきたかを紹介しています。

生い立ちも立ち位置も様々ですが、この7人は強い信念を持ち、努力を重ね、1度や2度つまづいてもあきらめないという点で共通しています。

彼女たちのバイタリティーあふれる姿に触れば、『女は「政治」に向かないの？』という投げかけに対する答えは明白なのではないでしょうか。

★ 4面にも情報コーナーの新着図書を掲載しています★

特集 女性も政治の世界へ



「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が昨年5月に施行された後、初めての選挙となる統一地方選挙が今年4月に、参議院選挙が7月に行われました。芦屋市では、史上2人目の女性市長が誕生しましたが、日本の女性の政治参画は進んでいるのでしょうか。

TOPIC 1 芦屋市長インタビュー

今年4月、女性2人が芦屋市長選に立候補しました。いとうまい新市長は、「男性優位の政治の世界にあって、女性2人の戦いは非常にめずらしく、ライバルである一方、同志という感覚もありました」と振り返ります。

新市長に政治における男女共同参画社会への思いを伺いました。



(編集委員) 日本で女性の政治参画が進むためにはどのようなことが必要だと思われますか？

(市長) まずは女性が政治にどんどん参加し、成功例を積み上げていくことが大切です。20代、30代の若い世代が先輩の作ってきた道を、さらに一步でも半歩でも進めてほしいと思いますし、その意味で「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の制定は大きな後押しになると思います。

しかし、私が市長に立候補するにあたり、私の後を女性に担ってほしいと何人かにお声をかけましたが、ご家族の反対などがありハードルはまだまだ高いと感じました。

(編集委員) 職場、家庭、地域などあらゆる場で男女共同参画が進むために必要なことはどのようなことでしょうか？

(市長) まず、男女ともに意識を変えていくこと、さらには男女の枠を越え「人」としてどう生きるかというとらえ方が重要になってくると思います。

また、意識以外の面では、働き方改革が不可欠です。

(編集委員) 市役所でも取り組んでおられますね。

(市長) 残業の削減や女性職員が育休復帰しやすい環境づくりなどを進めています。将来的にはICTの活用などで効率化を図り、より柔軟な働き方を推進していく必要があるでしょう。一方で、相談対応は手厚くするなど市民がもっと利用しやすい市役所を目指しています。

(編集委員) 市政にどのように女性の視点を活かそうとお考えですか？

(市長) 政治には鳥の目と虫の目が必要だと思います。全体を俯瞰する視点を持つつ、女性ならではの細かいところに手が届く、身近な視点を持った市政運営を行っていきたいと思います。また、議員時代に「あなたが女性議員だから相談したい」と言われたことがあります、女性市長ならではの相談のしやすさ、市民との対話も大切にしたいと思っています。

(編集委員) 同じ女性議員であったお母様への思いは？

(市長) 母は芦屋市で女性として初めて無所属で市議にチャレンジした人であり、引退するときに女性議員が減ることを懸念した母の思いが、私が政治にかかわるきっかけになりましたので、母の存在がなければ今の私はいません。

(編集委員) リーダーになることへの不安がある女性へメッセージをお願いします。

(市長) 以前、市議に立候補するか悩んでいるとき、「やらない後悔より、やって後悔するほうがいい」と私の尊敬する女性が助言してください、その一言で決断できました。その言葉を今度は私が皆さんに伝えたいですね。

私自身を含め、芦屋の女性が自分らしく、わくわくする新しい生き方ができるような芦屋を創っていくたいと思います。

TOPIC 2 日本の女性議員1割？！

昨年5月に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」は、選挙で男女の候補者数が均等になることを目標にしています。今年7月の参議院選挙は、新法施行後の初の国政選挙でした。

参院選における主要野党の女性候補者比率は、7月11日時点で、社民71%、共産55%、立憲民主45%となり、与党は自民15%、公明8%でした。全体で見ると、過去最高の28.1%でした。しかし当選率は26.9%で、前回の選挙より低くなりました。男女共同参画局ホームページの「女性の政治参画マップ2019」を見ると、女性議員の数が詳しくわかります。



